

第1回審議会の振り返り

令和8年7月21日

第1回審議会で出された意見の整理

第1回の環境審議会でいただいたご意見について、整理を行い、以下のとおり取りまとめました。

- (1) 「産業革命前」の記載は正しいのか。《第1回審議会資料2 p1》
→産業革命の時代とは違いましたので、計画書では修正いたします。
- (2) 再生可能エネルギーの発電量について、バイオマス発電の発電量は正しいのか。均一の数値に違和感がある。《第1回審議会資料2 p5》
→第1回の資料に掲載した数値は環境省が公表しているもので、発電設備の出力(kW)に基づく推計値となっています。ごみ処理による実際の発電量は年によって変動しています。

	葛飾区のバイオマス発電による発電電力量[MWh/年]				備考
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
出力(kW)に基づく国による推計値	51,088	51,088	51,088	51,088	自治体排出量カルテより(第1回審議会資料にて掲載した数値)
実績値	59,878	51,124	48,901	51,627	葛飾清掃工場 環境報告書より

- (3) 温室効果ガス排出量のうち、廃棄物部門の定義は何か?《第1回審議会資料2 p8》
→算定元としている「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」の算出方法は、「一般廃棄物中のプラスチック及び合成繊維くずの焼却に起因するCO2排出量」が算定対象とされています。

第 1 回審議会に出された意見の整理

- (4) 令和 5 年度における温室効果ガス排出量が削減となった要因及びより詳細な時系列の表記が欲しい。《第 1 回審議会資料 2 p7》

→様々な統計に基づいて算出されていることから、特定の要因を一義的に特定することは困難ではありますが、例えば産業部門に関していえば、事業所数や生産活動の動向、省エネ機器導入や省エネ取組の継続、電力のCO2排出係数の変動等、複数の要因があるため、個別に定量的な寄与を把握することは難しいです。

	平成20年	平成23年	平成27年	令和 3 年
工場数	3, 139	2, 673	2, 131	878
従業員数	17, 445	14, 656	11, 867	8, 119
製造品出荷額(億円)	2, 434	1, 984	1, 838	1, 644

- (5) ①温室効果ガスの削減量に注目が集まりがちだが、エネルギー効率を高めれば、工場の生産性向上にもつながるし、断熱の住宅は健康によい影響がある。温暖化対策をすることによる恩恵という観点も併せて、計画に反映していければと思う。

《第 1 回審議会資料 2 施策全般》

- ②葛飾区独自の指標を設定し、目標に向かって多くの人に参加してもらう取組があるとよい。《第 1 回審議会資料 2 施策全般》

- ③施策の進捗状況について、行動主体や寄与度、達成率等の根拠や成果を併せて整理されていると区民にとっても自分事化しやすく理解されやすい。

《第 1 回審議会資料 2 p10~12》

- ④花壇活動が計画内でどのような位置づけとなるか、区民としてどのような行動ができるか。《第 1 回審議会資料 2 施策全般》

- ⑤中小企業や零細企業は脱炭素に関する取組をしていない印象です。区民が実感できるような施策があると分かりやすい。《第 1 回審議会資料 2 施策全般》

- ⑥何か区民でできること、マイカーの利用抑制等の区民が取組みやすい具体的な取組が整理されているとよい。《第 1 回審議会資料 2 施策全般》

→各主体がどのような行動をとり、どのような効果があるのか等を記載するようにいたします。

- (6) 区民参加型のイベントでの発信により、温室効果ガス排出量の削減が区民のより良い暮らしに繋がることや区民一人ひとりの活動のきっかけになる施策があればよい。

《第 1 回審議会資料 2 施策全般》

→施策の中でイベントの開催について記載いたします。

- (7) エネルギーの効率化を実施しないことによるリスクの視点を交えながら計画策定を行っていただきたい。また、リソースが限られる中でキーパーソンとの連携が重要になる。《計画書全般》

→資料においてリスク等を表していきます。